予備教育初級前期における音読を通した発音矯正の実践報告

石上　綾子

要　旨

本稿は予備教育初級前期の学生を対象に2010年の冬学期に「音読」を通して発音矯正を図ることを目指して行った指導の実践報告である。この指導は毎日の授業の中で15分ほど時間をとって行った。学生へ負担をかけず楽しく学べると考え、慣れ親しんできたテキストを使って音読練習をした。指導の実践や発音チェック、学生へのアンケートから学生が意識して日本語を発音し、自分の発音の問題に対する「意識づけ」をして、発音矯正をする意欲を持たせるという当初の目的は達成できた。
【キーワード】日本語予備教育　初級前期　音読　発音矯正

A Report on the Implementation of Pronunciation Correction Training through Reading Aloud for Learner of the Beginning Level Preparatory Japanese Language Course

ISHIGAMI Ayako

【Abstract】This is a report on pronunciation training done for students in a beginning level Preparatory Japanese language course in winter 2011. This training took 15 minutes every day. It utilized the text book to which the students were accustomed, and required them to read it aloud, because this was thought to provide non-taxing and enjoyable pronunciation practice. Our goals of motivating students to become aware of their pronunciation problems, and to motivate them to correct the problems was accomplished through teaching, checking students' pronunciation, and administering questionnaires.
【Keywords】Intensive language course, basic low level, reading aloud, pronunciation correction

１．はじめに

初級の学習者が日本語を学び始め、初級レベルの文法や文型を習得すると、次第に個々の発音の問題が現れてくる。授業の中で模範的な発音をリピートさせて矯正するものの、学生の発音は容易には良くならない。また、発音は学生により問題が異なるが、一人一人に合った指導をするのは一斉指導では難しい。また、日本語学習初期の「発音の練習」は単純な練習の繰り返しで、学習者が積極的に取り組みにくいことが多い。

2010年度予備教育冬学期（１月６日～３月８日）の初級前期のクラスにおいて、発音矯正のための指導を授業に取り入れることになった。本クラスの学生は秋学期（10月７日～11月25日）よりゼロから日本語の学習を始めた。この時、ひらがなの読み書き練習とともに日本語の発音（清音、濁音、半濁音、拗音、長音、促音、撥音）の基礎は一通り学習している。しかし、その後、授業の中で特に発音矯正の時間はとっていない。秋学期が終了する時、学生の発音の問題点が挙げられるようになり、発音矯正の指導の必要性から、冬学期は「音読」を通して各自の発音矯正を図ることを目指した。

２．音読による発音指導の概要

2010年冬学期、毎日15分程度授業の中で行った。また、３課ごとに（学期中３回）個別の発音のチェックを行った。次に詳しい概要について説明をする。

2.1　目的

この発音指導は冬学期から毎日の授業の中に15分ほど時間をとって開始した。音読を通して発音矯正をするのは、学生へ負担をかけず慣れ親しんできたテキストを使って楽しく行える。また、授業と関連付けて発音の練習ができる等の利点があげられる。この指導の目的は以下の通りである。

① 日本語の発音、イントネーション、アクセントなどを身につける。
② 自然な速さで読めるようにする。
③ 意味のまとまりごとに区切って読めるようにする。
④ 音とつづりを結び付ける。

2.2　受講生について

本クラスの学生は８名（うち女子３名）で、国籍は中国４名、タイ２名、ベトナム１名、キルギス１名であった。

2.2.1　受講生の実態

本コースの秋学期開始後、日本語の発音の基礎は学習したものの、授業では特に発音の

指導は行わなかった。秋学期が終了した時点で、ほとんどの学生が発音、アクセント、イントネーションに問題があり、コミュニケーションに支障をきたしていた。そこで、冬学期は発音を矯正するための指導を行い、学生が意識をして日本語を発音し、自分の発音の問題に気付かせるという発音に対する「意識づけ」をし、発音矯正をする意欲を持たせたいと考えた。

2.2.2　受講生の発音についての意識（アンケートを通して）

音読による発音指導を始めるにあたり、学習者に発音の学習についてアンケートを行った。アンケートの結果は以下の通りである。

表１　「発音の学習」に対する考え

（人）

	項目	5	4	3	2	1
		非常にそうだ	そうだ	どちらでもない	そうではない	全くそうではない
①	日本語学習の中で大切だと思う順番（文法、語彙、発音、聴解、翻訳） ※発音が１位の人数	１位	２位	３位	４位	５位
		1	3	2	1	1
②	日本語の発音レベル（自己評価）	良い	やや良い	普通	やや悪い	悪い
		0	0	4	3	1
③	正確な発音で話せるようになりたい	7	1	0	0	0
④	正確な日本語で発音できているか意識して話している	2	2	3	1	0
⑤	正確なアクセントか意識して話している	1	2	5	0	0
⑥	正確なイントネーションか意識して話している	3	0	4	1	0
⑦	発音するとき難しいこと					
	・正しく発音しているかどうかわからない ・イントネーション（単語、語尾、文末） ・日本語のアクセント ・長音と促音 ・外来語と英語の違い ・「ji」と「zi」					

この結果から、学生は日本語学習の中で発音を大切だと思わない、またはあまり思わない学生は少なく、半数は比較的大切だと思っていることがわかる。

自分の日本語の発音レベルは全員が普通、普通より悪いと自己評価している。また、日

本語を話す時、正しい日本語の発音、アクセント、イントネーションを意識して話している学生がほとんどである。しかし現状では、日本語の発音、アクセント、イントネーションを意識して正確に話そうとはしているものの、正確かどうかわかっていない。日本語の正しい発音、アクセント、イントネーションがわからず、難しさを感じていることがわかる。そして、ほとんどが正確な発音で話せるようになることを希望している。

表２　　発音の授業について

⑧　今までどのように日本語の発音の学習をしてきたか
・CD、テープを聴く ・テキストを読む ・ビデオやテレビを見る ・音読、話す ・聴いてリピートする
⑨　どのような発音学習の授業を受けたいか
・話す、流暢に話す練習 ・聴く ・日本人のように正確な発音で話せるようになりたい ・アクセントを正確に話せるようになりたい ・日本語をたくさん聴き、音読練習をする

今までの発音の学習ではCD、テープを聴く、ビデオやテレビを見るという機器を使った方法や、音読、話す、聴いてリピートするという様々な学習をしている。そして、話す、聴く、音読等の学習をし、正確な発音やアクセントで話せるようになるため、音読練習をしたいという意欲もみられた。

３．指導の実践

この節では具体的な指導の報告を行う。

3．1　テキスト

受講者は予備教育で学んできたテキスト『Situational Functional Japanese』（以下『SFJ』とする）には慣れ親しんでおり、内容も理解していることから、SFJのレポート文(各課ごとに留学生が日常生活において遭遇する場面の会話を叙述文にしたもの)を音読することにした。レポート文にはふりがなが振ってないのでふりがなを振ったテキストを準備した。音読のテキストとしてSFJのレポート文を使用したことで以下のような効果が見られた。

・既に学習した内容であることから、言葉や文の意味が理解しやすく、学生が取り組みやすかった。
・学生の中には、宿題として発音を意識してレポート文を読む練習をし、日本語の文章そのものも覚えることができ、覚えた文を授業中に使ったり日常の会話の中で使う学生もいた。

3．2　指導の流れ

具体的な指導の流れについて述べる。

① 課全体の音源を聞かせる：既に学習した課のレポート文ではあるが言葉の意味や内容を再確認する。また、発音の注意点を確認する。
② 一文ずつ教師が音読→学生全員でリピート（1、2回）
③ 課全体の音源（または教師の読み）を聞く
④ 教師が一文ずつ音読→学生はテキストを見ないでリピート
⑤ 教師が一文ずつ音読→学生はテキストを見て音読
　1コマ目：全員でリピート
　2コマ目：ペア練習（一文ずつ交互に）
　3コマ目：課全体を各文ごとに一人一人順番に音読
　4コマ目：全体をリピート(含シャドーイング)
　　全員で、または一人一人で音読

3．3　指導内容

① 課全体の音源を聞かせ、発音の注意点を確認する

既に学習した課のレポート文を聞かせる。1課を4コマに分けて行う。1コマ目はそれぞれの言葉やレポート文全体の意味を確認し、内容について理解しているか確認する。また、レポート文の中の言葉の発音やアクセント、文のイントネーションが正しく言えるように説明する。そして、言葉や文の意味を考えながら発音、音読練習をする。

② 教師が音読→リピート

①で正しい発音、アクセント、イントネーションの説明を聞いた後、教師の音読を聴いて学生がリピートする。学生はテキストを見て文字を確認しながら発音したり、テキストを見ないで音読したりする。また、一人ずつ読ませ正しく発音ができるかチェックした。この時、個々の学生は苦手な発音が違うので、各自の苦手な音、発音、アクセント等を意識するようにさせた。

音読に慣れるに従って、全員でリピートしたり、音読の文を長くしたり増やしたりして、

飽きずに音読に取り組めるようにし、最終的にシャドーイングの練習ができるようにした。

3．4　発音チェック

レポート文の音読指導は1課を4回行う。そして、3課ごとに発音チェックを行った。チェックの方法は、前日に既習の3課のレポート文のうち、どの課をチェックするのか学生に知らせる。学生はその課のレポート文を練習してくる。チェックの時、一人ずつ教師の前でレポート文を音読する。教師は発音、アクセント、流暢さをチェックする。特に間違った箇所があるときはコメントをし、学生にフィードバックをした。

【実践例】

（レポート文）　　第11課

田中さんはよく本を読(よ)みます。一週間(いっしゅうかん)に2回ぐらい本屋(ほんや)へ行って、本をさがします。きのうもリサさんといっしょに『日本の会社経営(かいしゃけいえい)』という本を買(か)いに行(い)きました。

本が見つからなかったので、本屋の店員(てんいん)に聞(き)きました。店員はいま切(き)らしているが、注文(ちゅうもん)したら2週間ぐらいで入ると言いました。それで、注文票(ちゅうもんひょう)に本の題名(だいめい)と自分(じぶん)の住所(じゅうしょ)、電話番号(でんわばんごう)、氏名(しめい)を書いて注文しました。店員は本が入ったら連絡(れんらく)すると言(い)いました。

【発音チェックの中でみられた学生の不適切な発音例】

※〈　〉内は学生の国籍

※　右は学生の間違った例

清濁	ぐらい	：くらい	〈中国〉
	さがします	：さかします	〈タイ〉
長音	だいめい（題名）	：だいめ	〈タイ〉
	ばんごう（番号）	：ばんご	〈タイ〉
	ちゅうもんひょう（注文票）	：ちゅうもんひょ	〈タイ〉
促音	なかった	：なかた	〈中国〉
	はいったら	：はったら	〈タイ〉
撥音	てんいんは（店員は）	：てんは	〈ベトナム〉
	てんいん（店員）	：てえいん	〈タイ〉
拗音	にしゅうかん（2週間）	：にしょうかん	〈ベトナム〉
け・か	けいえい（経営）	：かいえい	〈中国〉
	にしゅうかん（2週間）	：にしゅうけん	〈中国〉

き・け	きらす（切らす）	：けらす	〈中国〉
も・む	ちゅうもん（注文）	：ちゅうむん	〈中国〉
て・た	ている	：たいる	〈中国〉
ほ・ふ	ほん（本）	：ふん	〈中国〉
ぶ・む	じぶん（自分）	：じむん	〈中国〉
つ・す	みつからない（見つからない）	：みすからない	〈タイ〉
つ・ちゅ	みつからない（見つからない）	：みちゅからない	〈ベトナム〉
～と	～と	：トゥオ	〈タイ〉

【発音チェックの中でみられた学生の不適切なアクセント】

※　右は学生の間違い例

たなかさん（田中さん）	：たなかさん	〈タイ、中国〉
いっしゅうかん（一週間）	：いっしゅうかん	〈中国〉
はいる（入る）	：はいる	〈中国〉
いいました（言いました）	：いいました	〈中国〉
ちゅうもんひょう（注文表）	：ちゅうもんひょう	〈キルギスタン〉
きのう（昨日）	：きのう	〈キルギスタン〉

【その他】

※　□はポーズ、やや長いポーズが入る

イントネーション

てんいんはほんがはいったら（店員は本が入ったら）	：てんいんは↑ほんが入ったら↑	〈中国〉

ポーズ

かいしゃけいえい（会社経営）	：かいしゃ□けいえい	〈中国〉
ちゅうもんひょう（注文表）	：ちゅうもん□ひょう	〈中国〉
みつからなかったので	：みつからな□かったので	〈タイ〉
ほんがはいったら（本が入ったら）	：ほんが□はいったら	〈中国〉

4．実践後のアンケート結果

冬学期の本発音指導の終了時に、この指導や発音に関するアンケートを行った。以下に、このアンケートの結果と考察を述べる。

表３　授業について

①　難しかったか				
５（難しい）：０人	４：２人	３：３人	２：１人	１：２人
②　楽しかったか				
５（楽しい）：２人	４：２人	３：２人	２：２人	１：０人

受講者はこの指導をあまり難しいとは思わず、比較的楽しく音読や発音の授業に参加できたようだ。

表４　聴解の練習

③　家でスクリプトを聴いたか				
５（よく）：０人	４：３人	３：５人	２：０人	１：０人

レポート文の聴解はMP３から音源を取っていつでも学生が聴けるようにした。聴解は授業中にはできないので学生が家で聴いてくるのが原則であったが、期待したほどは聴いていなかった。

表５　発音について

④　日本語の発音レベル（自己評価）					
指導前	５（上手）：０人	４：０人	３（普通）：４人	２：３人	１：１人
指導後	５（上手）：０人	４：０人	３（普通）：６人	２：２人	１：０人
⑤　発音がよくなった					
５（とても）：４人	４：２人	３：１人	２：１人	１：０人	

発音指導をする前に自分の発音レベルについて「下手、やや下手だ」と思っていた学生が減り、「普通」のレベルになったり、「下手だ」と評価する学生がいなくなったりした。また、６名の学生は自分の発音は良くなった。その内４名はとても良くなったと考えている。その理由として以下の事柄をあげている。

・一つ一つの文を教えてくれた。
・長い文はどこで区切ったらいいかわかった。
・今は正しく発音できなかった日本語が正しく発音できる。
・自分の弱点がわかった（っ、ん等）。だから、これらの発音をする時は気をつけて発音したり練習したりする。

・たくさん練習した。
・日本語を話したくて研究室で日本人と話した。

学生は今まで、発音が悪いのを指摘されてきてはいたが、何が自分の発音の弱点であり、どのように正しく発音したらいいのかが分かっていなかった。それがこの発音指導を通して理解できるようになったことで、発音がよくなったと記述しているのではではないかと推察される。

表 6　発音の意識化

⑥　授業後、意識して話しているか（5：とても　　1：いいえ）					
発音	5：2人	4：3人	3：2人	2：1人	1：0人
アクセント	5：1人	4：4人	3：2人	2：1人	1：0人
イントネーション	5：1人	4：2人	3：4人	2：1人	1：0人
⑦　自分の発音の問題点は何か					
・アクセントやイントネーション ・どこにアクセントがあるかわからない ・文の中で、どこで切るかわからない ・中国のイントネーションは 4 つあります。私の日本語も 4 つです ・「か/が」「て/で」「つ」「し」「ちゅう」「ちょ」「う」「っ」「じ」「しょう/しょ」					

授業後、学生たちは自分にとっての発音の問題点を具体的に記述し、なぜ問題なのかを考える自己モニターの力がついてきている。そして、発音指導前より発音、アクセント、イントネーションを正しく言えるように意識して話す学生がわずかではあるが増えている。

表 7　その他

⑧　発音指導・授業について自由に書いて下さい
・もっとこのようなトレーニングをやってほしい ・もっと長い期間やったほうがいい ・発音だけでなく各課のレポート文を覚えることができたのもよかった。私はレポート文を覚えて普段使うようにした

この発音指導を通して学生は発音矯正の必要性を意識してきており、短時間では正しい発音が身に付かないことにも気づいてきている。また、音読を通して発音練習をしたことで、音読練習をした文を覚えて日常使えるようになった学生もいた。自分の発音の問題点に気づき、それを直そうという意欲が見られるようになったことをきっかけに、コメントにもあったように、今後も継続してトレーニングを続ける必要があると言えよう。

５．まとめと今後の課題

今回の実践では、初級前期の学生に初めて発音矯正の指導を行った。学生が意識して日本語を発音し、自分の発音の問題に対する「意識づけ」をして、発音矯正をする意欲を持たせるという当初の目的が達成できた。また、単調になりやすい発音の練習を音読を通して行ったことで、練習に取り組みやすかった。

学生の中には、レポート文を読む練習をする中で日本語の文章そのものも暗記して、暗記した文を会話の中で使う学生もいた。音読練習で「話す」ことを実感でき、コミュニケーションの力を向上させることもできたといえる。

学生は、かなり自分の発音の問題を意識して発音の練習をするようになってきてはいるが、なかなか母語の影響からくる発音の癖が矯正できない学生が多い。今後の課題として、一人一人個別に対応して発音矯正を行い、発音チェックで見られる不適切な発音のフィードバック等、適切な発音指導を継続して行う必要があると言える。

参考文献

筑波ランゲージグループ（1992）『SITUATIONAL FUNCTIONAL JAPANESE volume 1. notes』凡人社

加納千恵子・小林真紀子・関裕子・柳田直美・石上綾子（2009）「初級後期日本語授業の目標と課題」『筑波大学留学生センター　日本語教育論集』25：67-86

許挺傑・酒井たか子（2010）「中国人日本語学習者の発音矯正トレーニングについての実践報告」『筑波大学留学生センター　日本語教育論集』26：87-97

成田律子・小西知代（2002）「広東語話者における日本語の発音矯正～発音指導の事例報告より～」『ICU日本語教育センター紀要』12：63-74